

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 特別活動部会

テーマ

『子どもたちが生き生きと行う集団活動のための学級会の取組』

第3学年学級活動 「お楽しみ会をしよう」

提案概要

〈実践の概要〉

○市学校教育研究会特活部会のテーマを生かした取組

・学級会を通して、子どもたちが意欲的に取り組む話し合い活動のあり方について、次の4つの観点で研究を行っている。

1. 司会の立て方とそれに伴う全体での進め方
2. 小グループでの討論のあり方
3. ふり返りの仕方
4. 話し合う時のルールとマナー

今回の実践では、活動を継続していくなかで、子どもたちが思い、考えたことをつなげていくためには、次の活動に生かせるような「ふり返り」は重要ではないかと考え、「3. ふり返りの仕方」を取り上げた。

○一人ひとりが参加の意欲をもてるような学級会の取組

・計画委員会の事前準備・小グループ内での役割分担・活動の可視化・不安を解消するための話し合い

○事後の活動に生かすためのふり返りの工夫

〈成果と課題〉

【成果】

学級会の手立てを工夫することで、活動の内容が明確になり、子どもたちが進んで取り組むようになった。また、計画委員会で事前準備を行うことで、子どもたち主導で行えるようになった。さらに、「ふり返り」をすることで、一人ひとりが感じていたことを共有することができ、自分たちのこととしてふり返ることができるようになり、次の活動に生かそうとする意欲が見られた。

【課題】

時間の確保が難しく、なにに対する「ふり返り」なのかが、分かりにくくなってしまいう場面も見られた。まとめる際に“落とす・選ぶ”になりやすく、時間内に発展的な話し合いとなって終えることが難しい。

質疑概要

Q：自分の主張が通らなかった児童の活動の様子や折り合いのつけ方について

A：意見が分かれるなどで学級会がまとまらない時には、最終的に多数決などにし、時間で区切るようにしていた。

主張が通らなかった子どもも納得して活動に参加し、ふり返りの中で次に生かす意見を書いていた。

Q：話し合いを1時間でまとめることが難しい。全て1時間で終えたのか。また、終わらない時はどうしていたか。

A：始めのころは言いたいことが多くて、収まらなかった。時間で切ることを徹底した。

Q：その時の結論の出し方について

A：内容の決定は多数決。ルールについては譲り合いで、計画委員会が再度確認する。計画委員会で困った時には朝の会や帰りの会で全体に確認する。

Q：ふり返りは毎回やっていたら子どもたちが飽きてしまうのではないかと。時間の確保の仕方はどうしていたか。

A：子どもたちには「なぜ、ふり返りをするのか」「次に生かすために必要であること」をしっかりと意識させることが大切。ふり返りをするすることで、折り合いをつけていくことを意識させることができる。お楽しみ会がうまくいくことが目的でない。自分たちの活動を見直すことが目的なので、必ずふり返りの時間をとっている。ふり返りの時間は、1時間の中に収まらないときは、朝の会や帰りの会に行った。

Q：学級会のため教師の想いをどのようにいれていったか。

A：教師はなるべく口出しをせずに子どもたちの想いを重視していたが、回数を重ねるうちに「私」から「私たち」へと他者の意識したためあてに変化していった。

研究協議概要

6 グループに分かれ、協議の柱を中心に話し合い、各校の実践例や感想などを出し合った。

○協議の柱1『学級会における「ふり返り」の時間の役割や充実させる方法について』

- ・ふり返りの時間の確保について。ふり返りの視点を設ける必要がある。
- ・ふり返りを書いて終わりではなく、それを全体に広める。
- ・ふり返りの役割は、計画委員会を通して、次の活動に生かすこと。クラス全体で見つめ直すことで、自分と違う気持ちに気付くことができる。
- ・充実させるために、時間がとれない。めあてが「楽しく・・・」だとふり返りにくいのではないか。
- ・話しやすさの工夫が良かった。
- ・3年生でベースがあれば、4・5・6年でさらに成長できる。どんな話し合いを積み重ねてきたかが重要。
- ・ふり返りは、自発的に子どもが必要だと感じた時に取り入れればよいのではないか。
- ・話し合いの流れが一貫しているので話し合いの仕方がスムーズだった。

○協議の柱2『各校における子どもたちが自ら進んで行う話し合い活動の取組について』

- ・少人数やペアで話合うことを重ねることで、話し、聞く経験を積むことができる。
- ・司会のマニュアルを使うことは、枠にはめることになる。しかし、学校全体で取り組むことで、成長過程に合わせた取組となる。
- ・クラスによって取組が違うので、積み重ねがしにくい。
- ・学校全体で積み重ねることで、話し合いのルール・マナーを身に付けることができ、高学年で進んで学級会を進めていく姿勢を養うことができる。
- ・クラスでアンケートをとり、自ら課題を設定している。
- ・どれだけ自分事としてとらえることができるかが大切。
- ・帰りの会を使って、1日のふり返りを行っている。そこから学級会へつなげることもできる。

まとめ概要

今回の提案では、子どもたちが実践に対して「ふり返り」を行うことで、ひとりひとりが感じていたことを共有することができ、「次は何を頑張るか」と、次の活動に生かそうとする意欲・態度につながることを示された。話し合い活動が全ての学習のベースとなり、自らの考えを実現していく方法やその力を身につけることが大変重要である。望ましい集団活動というものが一体どんなものなのか、子どもたちが考え、それを実現する時間は、例え短い時間でも、目的を明確にすることで充実したものになっていくのではないか。さらに、必然性や意味のある話し合い活動が日常生活でも生きていくのではないか。

また、1年生から成長過程に合わせて取組を積み重ねていけば、6年生の時には大きな力を発揮し、学校全体を動かしていく態度が育つ。学校全体でできることから取り組もうとする姿勢が大切である。